

交雑によるカンキツ新品種の育成

和歌山県果樹試験場 栽培部 田嶋 皓

1. はじめに

近年、温暖化によると思われる気象変動の影響により、果皮障害、隔年結果、凍害などが多発し、高品質果実の安定生産が困難な事例がみられます。また、他県において優良なカンキツ品種が開発される中、本県においても品質が優れ栽培しやすい県オリジナル品種の育成が求められています。このため、果樹試験場では交雑による新品種育成に取り組み、食味が良く、比較的栽培が容易と思われる「和果試交雑第1号（仮称）」を選抜しましたので報告します。

2. 来歴

2002年に「清見」に「中野3号ポンカン」の花粉を授粉し、得られた実生を2005年にほ場に高接ぎしました。一次選抜を行った後、2014年から二代目（原木から増殖させた後代個体）の果実調査を実施しました。その結果、原木同様果実の品質が優れていたため、2015年に品種登録候補として最終選抜を行いました。また、和歌山県果樹試験場ではじめて選抜したカンキツの交雑個体なので、「和果試交雑第1号」と名付けました。

3. 特性

1) 樹体について

樹勢はやや強く樹姿はやや直立性で、枝梢は密生します。トゲの発生はみられますが、結実とともになくなってきます。

2) 果実について

果実の特性は表1に示します。果実の成熟期は1月中下旬で、果汁の糖度は12~13です。果汁量は中で、さじょうが大きいいためサクサクした食感が特徴です。果実は平均200g程度、果形は扁平です。果皮色は鮮橙、果皮は「清見」や「中野3号ポンカン」より薄く、剥皮は比較的容易です。また、浮皮はほとんど発生せず、これまでのところ果皮障害は観察されていません。果心は空洞になっており、断面の様子は「中野3号ポンカン」に似ています（図2）。また、クエン酸含有率は、「清見」より低く、「中野3号ポンカン」より高く推移しました（図3）。

4. 今後の予定

現在、品種登録出願に必要な特性調査を実施中です。今後は、果実の貯蔵性などについても調査を行うとともに、関係機関や団体と連携しさまざまな園地条件における適応性を検討するため、現地試験を実施していく予定です。



図1 「和果試交雑第1号」

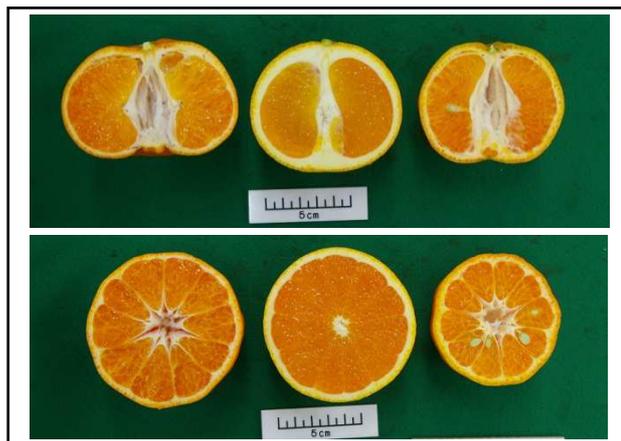


図2 対照品種との比較（左から「和果試交雑第1号」、「清見」、「中野3号ポンカン」）

表1 「和果試交雑第1号」と対照品種の果実品質（調査日：平成28年1月19日）

品種・系統名	横径 (mm)	果形指数	果実重 (g)	果皮色	果皮厚 (mm)	果肉割合 (%)
和果試交雑第1号	79.4	122	203	鮮橙	2.9	79.6
和果試交雑第1号(二代目)	77.7	127	189	鮮橙	2.8	81.4
清見	83.3	114	250	鮮黄橙	5.2	72.8
中野3号ポンカン	72.3	115	155	鮮橙	3.8	70.0
はるみ	87.1	114	254	鮮橙	4.2	73.1

品種・系統名	剥皮の難易	種子数	浮皮度 (0~3)	糖度 (%)	クエン酸含有率 (%)	糖酸比
和果試交雑第1号	やや易	1.1	0	12.9	1.12	11.5
和果試交雑第1号(二代目)	やや易	0.4	0.1	13.6	1.19	11.4
清見	やや難	0.3	0	11.0	1.42	7.7
中野3号ポンカン	易	6.6	0.5	13.9	0.86	16.2
はるみ	易	2.2	0.3	13.0	0.87	15.0

※果形指数＝横径／縦径×100。数字が大きいくほど扁平。

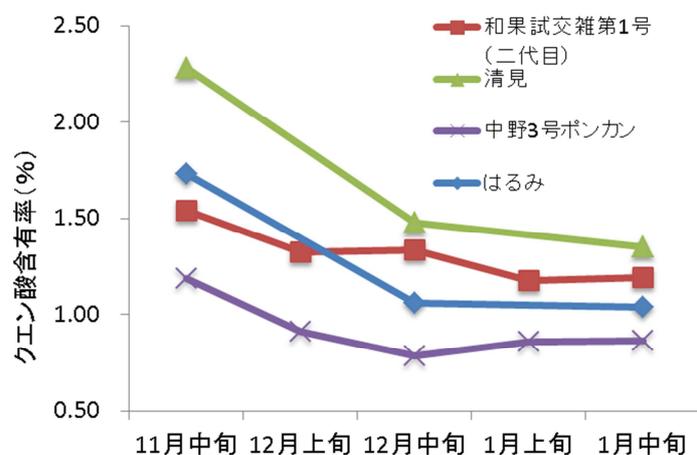


図3 「和果試交雑第1号」と対照品種のクエン酸含有率の推移